

北海道行政書士会60周年記念特別企画

浅田次郎講演会及び座談会

札幌支部 板垣俊夫

北海道行政書士会60周年記念特別企画事業として、広く道民の方々に行政書士の業務を知ってもらいたい。街の法律家としてもっと認知度を高めたいとの趣旨にて講演会を主催する運びとなりました。講演会を催すに当たり、沢山の市民を会場に集客することができる人として、御高名な直木賞作家「浅田次郎」氏をお呼びすることに決定致しました。講演会のみならず座談会も企画して、その旨を浅田先生にお願いしたところ、快くお引き受けをいただき、平成23年5月26日招聘することができた次第であります。



座談会のようす

当日午後3時から札幌市民ホールの一室にて、午後5時までの2時間の設定で座談会を始めさせていただきました。出席者は、浅田先生を囲んで大淵勝敏先生（小樽）、小林八重子先生（函館）、南方宏幸先生（札幌）、司会進行役として板垣の5人で進めさせていただきました。まずは、出席者個々から自己紹介をしていただきました。浅田先生は、1951年12月13日生まれで、陸上自衛隊に入隊していたり、アパレル業界でアパレル業を営む傍ら文筆活動を行うなど様々な職業を経て作家になられた方です。最初のお話として、3月11日の東日本大震災で津波による未曾有の大災害、福島原発の災害等で被災者の方々は大変な思いをされており、心が痛む思いであることを言われておりました。先生は陸上自衛隊に入隊されていたことで、北方領土と北海道のイメージを語っていただきました。又悪漢小説「きんぴか」の中で連隊の老准尉が行政書士の資格をとった旨の記述がありますがお兄さん（行政書士を東京で開業）の影響ですかとの問いに、最初の頃の小説なのでそうかも知れませんとのお返事でした。私共としては、もっと行政書士の事を書いて欲しいし、行政書士が主役として登場するような小説を是非書いていただきたいという勝手なお願いをして座談会を締めさせていただきました。非常に中身の濃い座談会でありました。



浅田次郎先生



大淵勝敏先生



板垣俊夫



小林八重子先生



南方宏幸先生

一時間休憩の後、午後6時から同じ札幌市民ホールでの講演会が開演され、観客数約985人程度入場していたものと思われ盛況でありました。「近代中国と日本」と題して、中国の歴史を旅する作家のまなざしを通して、中国の清朝廷をとりあげ、中国の現在の有様と日本人との兼合い等間断なくお話しをされました。又自分が審査委員として審査する小説で厚いものは読むのを遠ざけたい気分になるとのことであり、特に1頁に二段書きしてあるような小説は敬遠したい。自分が鉄道員(ぼっばや)を書いて直木賞をいただいたのは、読む分量が薄かったからではないか。とのコメントがあったときは、客席はドツと沸き笑い声で一杯でした。講演予定の二時間があつと言う間に過ぎ、最後は、会場の客席から3人程の方に質問を受けられて、丁寧に答えられ、主催者側として真に有り難い御配慮であったことを感謝申し上げる次第であります。

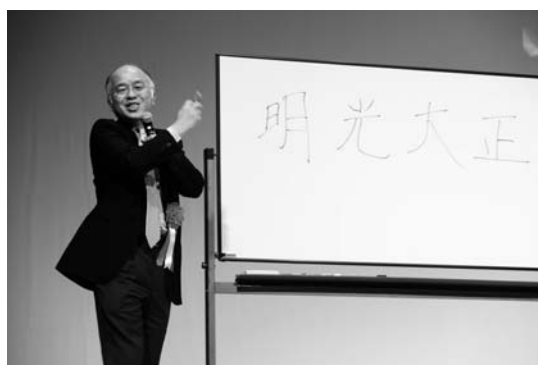


講演会のようす



講演会のようす

浅田先生は引き出しが沢山あって、面白く、ユニークなトークで観客を飽きさせることなく魅了しつづけ、客席を笑いに包んでおられました。来場された方々は、浅田先生のお話しを聞いて満足されていたものと思います。浅田先生の講演会によって、北海道行政書士会60周年記念特別企画事業が成功裡に終わったことに対しまして、この特別企画を応援して下さいました方々、そしてスタッフの方々に心より御礼を申し上げます。有難うございました。



一般市民の方々に参加していただける講演会を開催したいとの思いで、板垣先生、大淵先生を中心に委員会を立ち上げ2年前から取り組んで来ました。委員会として行き届かない点多々ありましたが、札幌支部理事の皆様をはじめ多くの方々のご協力により、市民の皆様に喜んでいただける講演会となりましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。誠に有難うございました。

60周年記念特別事業委員 嶋田俊二郎